広報
さめがわ

第128号
昭和39年
7月25日発行

編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町　佐藤印刷所



偉力を発揮する畦畔ダスター



村有林に杉を植える鮫川高校生

○　去年のイモチ病大発生にこりて、今年は出ないうちに予防消毒をしようと、各大字の農事組合単位に一斉防除が行われました。

　広い面積に能率を上げる畦畔ダスター二台を初め、動噴十数台を動員して、全村一週間でひとまわりしました。

　病虫防除は共同で全面積について行ってこそ効果が適確にあらわれます。

○　蕨の草村有林は、これまで県行造林になっていましたが今年から村にかえしてもらい村が造林することになりました。

　今年はそのうち一〇ヘクタールについて杉の植樹を行いました。

7月の人口と世帯

人口	7.744	(−25)
男	3.834	(−17)
女	3.910	(− 9)
世帯数	1.236	(＋2)

子どもの目

（鮫小の文集より）



現代の子供たちの夢と理想そして現実、それは私たちが育ってきた時代とは大きな差があります。親が考えもつかないようなことを話したり書いたりしています。

ここにあげたいくつかの作品は学校文集としてまとめられた、鮫小の「こわだき」第二集のなかからとりあげたものですが、現代っ子の一面を現わしているのではないかと思われます。

掲載作品は無記名にさせて頂きました。今後もこのような企画をつづけてゆきたいと思いますので、御意見を編集部までお寄せ下さい。

（鈴木一）

うちのあかちゃん

うちのあかちゃんはとてもすきだ。

だから毎日子もりをしてやるおろしておいて、おもちゃをだすと、よろこんでころがしたり、ぶんなげたりする。だいてあるくと、くびをくすぐったりしてわらいます。ぼくが学校からかえると、わらってぼくの所にくる。

「いやだ」。

といってにげるまねをする。と追ってくる。

しかたなしなしだいてやる。なぜ、ぼくのところにくるのかな。

ぼくがすきだからだろうか。でも、ぼくは、前からあかちゃんはとつてもすきでした。

母

母が、あせをながして働いているのを見て、仕事をてつだわないわけには、いかなくなつてしまう。

重い物をしよつて、こしをまげているのを見ると、母がかわいそうに思う。

夜、おそくまで、ぬいものをして、はりのめどが、とおらない時には、「おれ、とおしてやつかんない」という。

そんなとき、「はりさしのところにおけ」。という母だぞうきんなど、ときどきかけてやると「めんごいな」という。

母が　夜わりをしている。「照子、はやねろよ」。といわれても　母がしんぱいだ。「母ちやんよ　はやねらし、体にわるいから」。と言うと「いいからねてろ。」と言う母は　仕事して、テレビも見ないで、仕事を続けている

大きくなつたら

ぼくは　大きくなつたら　いしやに　なりたいと　思います。

そして　いろいろな　病気にかかつて　苦しんでいる人をなおして　やりたいと思います。

かんごふさんも　たくさんおきたい。

ぼくが　いつて　病気に　かかつて　困つている人を　助けたいと思います。

大きい　病院を　いくつもたて　「野口英世のようなりつぱな人に　なりたい」

ぼくの大きなゆめ

ぼくのゆめは、農業のしかたを改革することだ。

鮫川村の農業も進歩して来たが、商業の発達にくらべるとまだまだおくれている。

ぼくの家では仕事に追われどうしではないが、田畑がほうぼうにあるので仕事がしにくい。休みの日には仕事を手伝うが、仕事が能率に進まない。ぼくが学校の日もお母さんは、不便な思いをして仕事をしている。

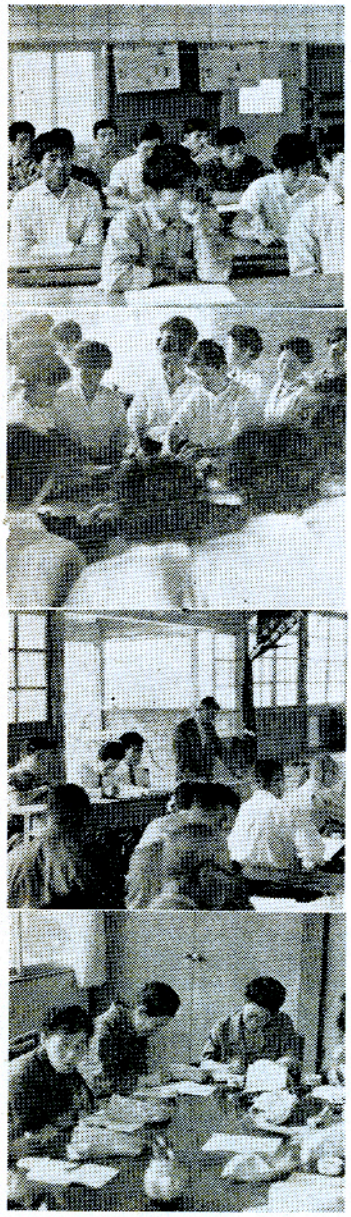
ぼくは大きくなつたら、田畑の耕地整理をしてみたい。

そしてたたみのように、きちんとした田畑で、能率的の高い進んだ機械を使つて仕事をしたい。

そうなつたらどんなに気持のいいことだろう。仕事の労力の不足もおぎなわれ、そして仕事がどんどん進み余つた時間が出来る。

そのような生活が人間らしい生活といえるのではないだろうか。

村内あれこれ……1



研究意欲のたくましい青年学級の生徒さんたち、この輝くひとみよ。

農繁期はこの料理でのりきろうと、実習に真剣な婦人学級の皆さん。

今年の産業振興方策を討議する農事団体長さんたちの協議会。

郡内の婦人会長さんたちが役場の小会議室で今年の活動方針を協議。

災害復旧工事着手



四月の大雨で落橋していた大字西山区内の村道赤坂石川線田中地内にある湯名田橋が六月三十日に藤田建設の請負で、コンクリート永久橋として着工されました。工費は百万円で九月中旬に完工の予定です。

（写真は落橋した湯名田橋）

蕨の草村有林一〇へクタール植林完了

今年の五月まで県との契約によつて県行造林地であつた大字赤坂東野字蕨ノ草村有林（一五・八六ヘクタール）は今度契約を解除し、村自体の計画で造林することになり昭和三十九年度分として一〇ヘクタール、三四八〇〇本の杉苗を植付けました。

地拵い植付等の作業は鮫川村森林組合が村から委託をうけて行ないました。時期的にも遅れ、作業も困難しましたが高校分校の生徒まで参加し、棚倉林業事務所金子技師の指導と地元の協力で七月十七日までに計画通り完了しました

おめでた

五月
一七日　落合　根本　義一
二〇日　広畑　佐藤　浩子
二三日　青生野　吉成　洋二
二四日　取上　円井　義男
二五日　火打石　佐藤　秀子
二七日　酒垂　鈴木　裕子

六月
一日　前沼　蛭田　誠
八日　越虫　藤田　初江
一〇日　鍬木田　松本　里美
一五日　青生野　棚井　正治
一六日　落合　水越麻里子
二〇日　遠ケ竜　森　みどり
二一日　西ノ沢　芳賀　和子
二二日　薄ケ久保　高木　五月
二六日　二反田　松本　宇子
二七日　青生野　岡部　静子
三〇日　余所内　関根　忠徳
三〇日　押野　山本　久枝

おくやみ

六月
一日　酒垂　石井　忠夫
二日　青生野　棚井　スイ
一一日　中沢　生田目円之助
二二日　道少田　緑川千代松

村内あれこれ……Ⅱ



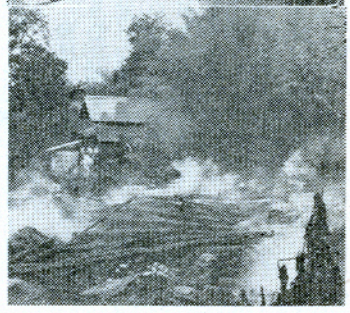
わらびの草村有林10町歩に植林、刈払機で地ごしらいをする青年たち。



農業改良推進員さんたちが農事試験場でふりしきる雨の中を現地研修。



カとハイと伝染病追放にのり出した公民館活動。消防団員が第一線で活躍。



無火災を目ざして予防消防に万全を期したが残念にも西山で2戸焼失。

和牛のこれから

村長　石田卯子八

(12)

七月十四、十五の両日、農林省の畜産局と県の畜産課から担当官が来られて、本村の和牛飼養の動向調査が行われました。

全国で七県、本県では本村と石城の川前村が被調査体に選ばれました。

この機会に和牛飼養のこれからについて考えてみましょう。

本村は昔から聞こえた馬産の村ですから、牛の歴史は比較的新しく、大正十五年に役用として鮮牛数頭が移入されたのが初めで、和牛の導入は昭和十三年頃からのようです

それが戦後馬の需用が急激に減り、耕耘機の普及も拍車をかけることになり、和牛が急速に増加する原因をつくりました。

現在馬は数頭を残すのみで和牛一二二八頭、乳牛四一五頭で、大家畜の数は馬の最盛期よりもはるかに多くなりました。

和牛増殖の要因と考えられるのは

1 飼養が容易で粗食にたえどの農家も一二頭飼うことは馬よりも容易であること。

2 畦畔山野の野草を主な飼料にあてられること。

3 厩舎設備、放牧採草地等馬の施設をそのまま転用できること。

などをあげることができましょう。

現在の本村農家の家族構成農業構造などからみて、和牛一二頭の飼養は、労力資本の上で格別の困難性はなく、馬産以来大家畜を家族の一員として、老人子供までこれを可愛いがる伝統的な愛育精神も本村畜産を支える大きな柱になつております。

耕種農業に欠かせない厩肥の利用をある程度高く評価すれば、生産される仔牛は純所得と考える考え方もあつて、朝草刈りと家畜手入れはあまり労賃評価をしない農家も多いようです。

しかしこれから行われるべき農業構造の中の基幹作目として和牛を考えますと、ここで飼養方式に大きな変革を必要とすることは誰しも考え及ぶところであります。

飼養規模が五六頭——一〇頭を目ざすとすれば、現在の厩舎では間に合わず、当然放牧が考えられなければなりません。

飼料も野草のみには依存できないので、飼料畑、草地、サイロなども必要になりましよう。

ここで農家の方々は構造改善事業の実施地区たると否とを問わず、それぞれの農家の農業構造を熟視して、生長部門の基幹作目について規模の拡大計画を進める方向にあると思いますが、和牛をとりいれる場合は

1 既設牧野の開発をはかること。

2 自宅の近くに小規模牧野を造成すること。

3 山林をそのまま使用する林間放牧を考慮すること

4 村営牧野を利用すること

5 生産育成だけでなく、肥育を併行して収益性を高めること。

など十分考慮に入れて計画され実施にうつるようおすすめする次第であります。

納税だより

なぜ高いか国保税

今年の国民健康保険税は納期数を五期に分け、既に一期（四月）二期（六月）分については納付していただいております。これは四月には保険税算定の基礎に用いる所得額が確定しないため、前年の保険税額の五分の二に相当する額を一期と二期に分けて暫定的に納めていただき、第三期分（八月）のときに今年の税額を決定し、先に納付した一・二期分を差引いて、残額を三・四・五期分に分けて納めていただくことになつております

今年の保険税は前年に比し平均して約二九パーセント増額されておりますが、これは医療費の値上りが最も大きな原因で昨年から世帯主に七割給付していることや、本年四月から育児手当を支給するようになつたこと、また、保険を利用する人が年々多くなつて、保険給付額が多くなり従来の税負担では支払いきれなくなつたためです。

しかしそれでも他町村に比較しますと決して高い方ではありません。

前年度の保険給付の実績によると、一世帯平均の保険税は四千七百円でありましたが皆さんが保険を利用したため村から医師に支払つ金額は一世帯平均約一万一千余円であります。

以上のことをよく御理解いただきまして納期完納で村の国保を育てて下さるようお願いします。

「か」と「はい」の防除

夏の衛生上一番困ることは「か」と「はい」の多いことですが、年ごとに徹底されて来た共同防除によつて住みよい家庭つくりに努力されていることは喜ばしいことです。

今年も東野、中野、西山各区では七月十日より三日間全戸もれなく共同防除を行い更に第二回目の計画もすすめられています。

火の用心

去る七月十三日午前二時半頃出火した大字西山字沼野沢の火災は、発見が遅れたため二世帯十棟が全焼しました。

原因は取灰の不始末によるもので、損害見積額は約五百万円です。

火災を未然に防止するためには、村民ひとり／＼が火に対して細心の注意が必要です

最近、生活様式が変り電気ガス、石油などによる器具が増加しておりますのでその取扱いなどについては充分注意され事故のないようお願いします。取灰などは、すぐ畑に撒くか、完全な入れものに入れ、危険でない場所におくようにして下さい。

告知版

少年ソフト大会

夏休み中の子供たちのレクリエーションとして野球連盟と公民館が共催し、学校教職員協議会の後援を得て、村内の小学校児童によるチームを対象にして、八月十日に村民運動場にて開かれますが、男女八チームの参加が予定され熱戦が期待されます。

産業青年 青年学級 の講座

在村青年の減少で開設が遅れていましたが、ようやく三十四名の申込者を得て九日に開講式を行ないました。

本年度は現地研修を中心にして講座を進める予定で、毎月三回の講座日のほかスポーツ大会参加など各種行事をおりこんでいます。生徒会の役員は次のとおりです。

会長…芳賀元治、副会長…鈴木七郎、芳賀チエ子、書記…鈴木輝司、岡部セイ子
会計…藤元健次郎、芳賀喜美子

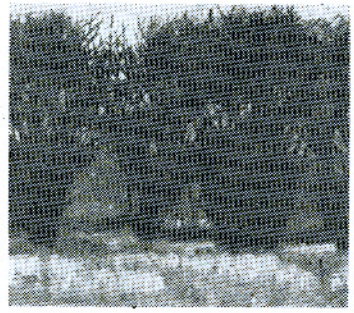
社会教育委員の委嘱

このほど教育委員会より次の方々が委嘱されました（敬称略カッコ内は推せん団体）

芳賀悟朗（村議会）、大楽勝男（PTA）、渡辺喜好（学校長）、鈴木孝雄（青年会）、石田末子（婦人会）

なお公民館運営審議会委員の補充として関根勝義（青年会）、芳賀一郎（農協）、体育指導委員に矢吹幸之助（鮫中）、蛭田正（鮫小）の各氏を委嘱しました。

鈴木画伯中央で受賞



郷土が生んだ芸術家の鈴木画伯は中央画壇で活躍していますが、このほど東京都美術館で開かれた第十回新興美術展に出品した、浅川町大草地内の梅林に画材をとった「暉」が、清光賞、アメリカハモンド賞、奨励賞の各賞を受けました。

（写真は入選作品）

野球連盟の新役員

このほど理事会を開き次のとおり役員を改選しました。

会長…生方利夫、副会長…芳賀文雄、緑川多気志、会計…湯座啓亘、事務局…鈴木一、前田守保、監事…鈴木一良、斉藤一郎
理事…白坂重雄、水野茂男、金沢一、金沢次男、渡辺好昭、前田武久、青戸学男、蛭田栄次

第四回大会は八月一、二日の二日間にわたり加盟八チームが参加し、村民運動場にて開かれます。

キャンプ用具 ご利用下さい

このたび野外キャンプ用のテント及び附属品を公民館に備えつけました。夏の野外活動に皆様方のご利用をおまちしています。

利用される団体は責任者より公民館事務局に使用される五日前までに申しこんで下さい。シーズンになると利用者が多いので先着順に貸し出しますから、早目に申しこまれたほうが有利です。

貸出料は現在のところ頂きませんが、紛失または破損の場合は弁償して頂きます。

西山の数え歌 (2)

七ツトセ
鳴音大きな雷光寺
今は御国の御堂で
信心きとうは大沢よ

八ツトセ
山で名高き仏地石
余所内土路部を目の下に
ことに目元のしだれ栗

九ツトセ
小丸の山とて基の昔
関根十郎住居して
伝わる子孫は大平よ

十トセ
尊やにぎわう森の山
根渡神社の御利益で
しんしよう追木や沼ノ沢

十一トセ
何時も見晴す社郷
景色美事な高岩で
折戸通つて見やしやんせ

十二トセ
西の内外祭られる
青三の神のお守りして
生れる子供は皆学者

十三トセ
さても珍らし宝木には
金のなる木はお門先
水のつきせぬ鉢石よ

十四トセ
人々信仰あつくして
れいけんあらたな妙見の
祭は五月の中のさる

十五トセ
牛頭天王を祭おく
何時も家内睦まじく
少しも小言わ岩の草

十六トセ
論無く心は落合で
峯には御たけ大神の
大鼓で宝を呼び寄せる

十七トセ
しち取るお金は固いもの
横座で一度摺合いは
火の出る石見田堂の山

十八トセ
花も紅葉も流れ込む
景色美事な強滝の
風もいこうよ　扇風石

十九トセ
汲めどもつきせず沸く湯つぼ
辺栗返して見やしやんせ

二十トセ
にこにこ内には福の神
外には鬼越明神の
御守護で区内は大繁昌

ふるさとの皆様へ

二瓶キクエ（旧性高木）

①中野字薄ケ久保　②鮫川小　③昭和二十二年　④教諭　⑤四人　⑥耶麻郡高郷村

鮫川の皆様お変りございませんか、毎日うつとうしい天気が続き何かとお困りの事でしようね。

今年の稲作は如何ですか、私も毎日雨に打たれながら、田んぼの側を通り通勤していますが、弱々しそうな、ぶよぶよした稲を見る度に、鮫川の方の稲はどうかな——。

やはりこんなに貧弱なんだろうか、それともイモチ病でも発生しはじめているんじやないかしら等と、届きもしない心配を致しております。

どうか、この悪天候にめげず、しつかり頑張つて下さい。

私もふるさとを離れて、足かけ八年。今は石田村長さんの郷里に近い耶麻郡西会津町立尾野本小学校に勤めて居ります。今日は、こちらのようすをちよつとお知らせ致したいと思います。

ここは、福島県の西のはて新潟県との県境になつている町です。そして雪の多い事で有名です。降る年ですと、三米位積り棄物はすべてストツプ。老いも若きもそして、金持も貧乏人も、皆、細い雪道を歩るきます。こんなことを書いてもなか〳〵想像出来ない事と思います。ですけど、雪が消えはじめると、春になるのが早く、三mもあつた雪が、みるまにとけて、植物が（動物も）一せいに活動を始めます。春から夏秋と、大変住みやすく、冬の雪さえ少なければこんな住み良いところはないと思つて居ります。

農家の人達も大変計画的で雪の多い冬の間に、一年の計画を全部たて、それによつて仕事をしているようです。

ですから、お正月ごろに、すでに田植の手間をたのんで歩くと言つたありさまですこんな点考えて見ては如何でしようか。すでに実行されている方もおありかと思いますがもバラバラのようで今後の改善が問題のようです。

その他にも多くの貴重な御意見をお寄せ頂き編集子も冷汗三斗の思いでした。できるだけ皆様の御要望にそいたい考えですので、今後もドシドシ御意見やら御批判をお寄せ下さい。

御礼

さきに実施いたしました与論調査に多数の皆さんから回答をお寄せ頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

集計とまとめがようやく終つたばかりですが、先にチラシでお知らせしたように盆の問題だけでも地区ごとに差があり、農休日の実施状況など